



神埼市立脊振中学校 学校だより

樹人舎 第12号

令和5年10月20日 校長 牟田美弥子

【学校教育目標】

脊振を愛し、進んで学ぶ、たくましい子どもの育成

【令和5年度の生活目標】

- ①自分たちで学校のよい雰囲気をつくる
- ②周りに信頼されるにはどうあるべきか考えて行動する

☆生徒たちが力を結集して、フランス・ボークール市のみなさんを歓迎しました！



神埼市・ボークール市
友好姉妹都市交流
2023.10.17

—2016年の訪問から7年目の訪問—
ボークール市のクルト副市長さんはじめ
9名のみなさんをお迎えしました。

最初は、全校生徒の合唱でサプライズ♪



当日の歓迎のアイデアは、3年生が考えてくれました。そのアイデアを、生徒会役員がひとつひとつ検討し、実現できるように計画しました。

ランチルームに拍手で迎え、歓迎の合唱を始めると感激の表情でカメラを向けていらっしゃいました。



「フランス語で話してみたい」 それはちょっと…

3年生のアイデアの中に、「フランス語で話してみたい」というのがありました。

これは中学生にはハードルが高いということで、フランス語で書いた歓迎の言葉を掲示するということにしていました。

ところが！ サプライズ！！
我らが生徒会長が一番ヶ瀬さんが、歓迎のあいさつをフランス語で行いました！

予想外のことで会場中が驚き、心からの歓迎の気持ち伝わって、みんなが笑顔になりました。



☆昼休みは、生徒たちと一緒に「折り紙」と「書道」を楽しんでいただきました



1学期に書道の学習に全校で取り組んできたことから、「ボークール市の方にも、ぜひ書道を体験してもらいたい」。そして「一緒に遊びたい」という3年生の声に応えて、折り紙（折り鶴）を一緒に楽しみました。ボークール市のみなさんに日本の文化を体験していただくことができたこと、フランス語は話せなくても英語と身振り手振りで交流できたこと、それを生徒たちが楽しんでいただいていたことを、とても嬉しく思いました。ボークール市のみなさんが、生徒と一緒に折った折り鶴と、生徒と一緒に書いた書道の作品の両方を、大事に紙に包んでカバンに入れておられました。交流の証は、飛行機に乗ってフランスまで飛んでいきます！



仮屋竹葉先生の「道」
会場中が、本物の持つ
力に圧倒されました。

全校生徒に書道を指導していただいている仮屋先生が、書道のパフォーマンスを実演して見せてくださいました。

「書道と言えば仮屋先生」の3年生の一言で、無理を承知でお願いしたところ、快く引き受けてくださり実現しました。

白馬のたてがみ 36 頭分を集めて作られたという大筆は、墨を含ませると 35Kg を超えるそうです。

仮屋先生は、「これからの人生、いろんなことがあるけれども、周りの人の力を借りながら自分が信じた正しい道を進んでいってほしい。道は、フランスへ、世界へとつながっています」と、母校の後輩への激励を込めて力強い「道」の字を書いてくださいました。

書き始められると同時に、生徒たちがそばににじり寄り、目を大きく開いて見ているのが印象的でした。



全校生徒のソーラン



交流の記念に、飛行機
の模型を一人一人に手渡し
いただきました。



「さよならを言うのは少し寂しいです」石松副会長



交流の記念として、神崎市からボークール市へ、名尾和紙に書かれた「懸け橋」の書が贈られました。

「自分たちで」を実践した生徒たちを誇りに思います。10月21日の文化発表会の写真展示をお楽しみに！